

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2193300098		
法人名	合同会社カーム		
事業所名	グループホームかんまち		
所在地	岐阜県飛騨市古川町上町459番地1		
自己評価作成日	平成29年11月14日	評価結果市町村受理日	平成30年2月9日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	介護情報が公表されるまでは、情報提供票をごらんください。
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 ぎふ福祉サービス利用者センター びーすけっと
所在地	岐阜県各務原市三井北町3丁目7番地 尾関ビル
訪問調査日	平成29年12月6日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>住み慣れた家に近づけるよう古民家を改修し、落ちついた雰囲気ホーム創りを目指しています。地域の景観に溶け込んだ建物同様、地域の方との交流を大切にし、入居者一人ひとりがその人らしく暮らしていけることを目指しています。</p>

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>事業所は、開設9ヶ月目である。太い柱が残る古民家を改修し、床と廊下は、段差なしで敷かれた真新しい畳が際立っている。利用者は、和風の落ち着いた住まいの中で、自分で出来ることを見つけ出し、そして、得意なことに関わりながら、その人らしく、生き生きと暮らしている。日常的に、排泄用品の補充や、通院、外出などで家族が事業所を訪れることも多く、職員は家族との信頼関係を築くことが出来ている。また、看護師も職員として配置されており、利用者の健康面を支えている。管理者、職員が一丸となって、介護経験を積みながら、利用者が穏やかに日々を送れるよう支援をしている。</p>

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価票

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「生活の質の向上、自立支援」を掲げ、一人ひとりにあった対応を常に考え、スタッフ間で共有できるよう努めている	理念は、分かりやすい文言で掲げている。利用者の持てる能力を引き出し、自立を支え、その人らしい生活が送れるように支援の実践をしている。開設一年目を契機に、理念の見直しを進めている。	理念の見直しを検討中であり、その具体化に期待をしたい。また、来訪者の目に付く位置に掲示することが望ましい。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	近隣を散歩するとき気軽に挨拶ができ、少しずつ地域になじんできている。地域の草取り作業、催し物、老人会へ参加できるよう検討している	自治会2区に協力費を納め、地域の祭りや催し物などに参加している。地域のボランティアも日常的に訪れ、利用者とは交流している。近隣からは、野菜の差し入れがあり、徐々に付き合いが広がっている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	飛騨市介護サポーター対象施設として登録し、ボランティア等を受け入れるようにしている		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議で出された意見や要望は毎月のカンファレンスでスタッフ全員で共有し、より良いサービスにつながるよう話し合っている	運営推進会議には、ほとんどの利用者も参加し、運営の実情やヒヤリハット事故などを報告している。感染症対策や利用者の健康管理、家庭的な雰囲気づくり等について、意見交換を行っている。それらをサービスの向上に反映させている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	日頃から情報を交換しながら、運営推進会議に参加してもらい、ホームの現状や活動報告し、助言してもらっている	担当者には、利用者サービスの現状を、運営推進会議の場で伝え、市主催の事業者連絡会やケアマネジャー会議でも交流し、協力関係を構築している。市の介護サポーター制度の活用や、成年後見などでも連携をしている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	転倒予防のため、ベッド下にセンサーマットを設置する際は使用時間及び使用期限を定め、本人・家族の同意を得た上で行っている。玄関の施錠は夜間のみで、日中は施錠せず、外出時はスタッフが同行している	身体拘束をしないことを基本に、ケアの実践を行っている。止むを得ない場合の対処については、本人・家族の同意を得て、工夫をしながら限定的に留めている。日中は、玄関の施錠はせず、本人の思いに寄り添っている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	マニュアルを整備し、毎月のカンファレンスでも虐待につながるような話合っている。家族や友人が気楽に来てもらえるよう配慮し、虐待が起きにくい環境を作っている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見制度を利用されている方もみえるご家族や関係者への対応を適切にできるような制度についての理解を深める機会を増やしたい		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約前にホームの見学してもらい、要望があればお試し利用できるようにしている 契約は、管理者または計画作成担当者が説明を行い、不安や疑問点を尋ね理解し、納得してもらえるよう努めている		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族や友人が訪問された際、気軽に意見を言えるよう努めている 運営推進会議でも意見交換できる時間を必ず設けている	利用者の意見に常に耳を傾け、家族からは、訪問時や会議の機会に、意見や要望を聞いている。玄関の施錠については、利用者の尊重とその意義を説明している。利用者の様子は、スライドで見てもらい相互理解を深めている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	常に意見や提案を聞ける体制にある 毎月の会議には代表者も出席している	職員の意見や提案は、月例のカンファレンスで話し合っている。個別支援の在り方や、感情の受け止め方、自立に向けた取り組みなどを話し合い、検討しながら、利用者サービスの質の向上につなげている。	会議では、運営全般や社会の事象と共に、スキルアップについてもテーマに上げ、話し合う機会を持たれるよう期待したい。
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	毎月の勤務に休日希望を取り入れ、働きやすい環境作りに努めている		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	個人の力量に見合う勉強会や研修会の機会があれば参加できるよう働きかけ、費用は法人負担としている		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム協議会に加入し、会合にも出席している 他のグループホーム等への訪問など今後検討していく		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前に本人との面談を行い、不安解消につながるよう努めている 入居後も本人の思いを受け止め、スタッフ全員で共有できるよう記録に残している		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前に家族と面談を行い、困っていること不安などを聞き、わかりやすい言葉で丁寧に説明するよう努めている		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人、家族との面談及び担当ケアマネからの情報を統合し、必要なサービスの見極めを行っている		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	一人ひとりの力量を見極め、スタッフとともに行うことで良い関係を築けるよう努めている		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	受診、理美容、日用品の補充などは家族に行ってもらい家族との関係を保てるよう努め、運営推進会議への出席を呼びかけている 家族が訪問した際には日頃の様子など話すよう努めている		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	友人や近隣の方に気軽に会いに来てもらえるよう努めている	友人や知人が訪れている。地元の恒例行事や思い出の場所等へ、ドライブを兼ねて出かけている。また、家族の協力も得ながら、買い物や美理容院、外食、通院、一時帰宅など、馴染みの関係を継続している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	リビングで過ごす時、食事の時、外出時の車の中など利用者同士の関係性を配慮し、必要に応じてスタッフが間に入り摩擦を避けている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約終了後も家族や関係機関からの問い合わせには柔軟に対応できるよう努めている		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	できることは継続できるよう、やってみたいことは少しずつでもできるよう支援し、日々の生活が充実するように努めている	利用者一人ひとりの趣味やこだわり、生活習慣、対人関係、嗜好など、様々であるが、日々の暮らしの中で、思いを把握するよう努めている。意思表示の困難な人は、表情や行動を観察し、それぞれの思いに寄り添うよう努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前の情報だけでなく、日々の会話の中でも生活歴等を把握し、安心して生活が出来るよう努めている		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の生活リズムをスタッフ間で共有し、変化や気づきを記録に残すようにしている		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎月のカンファレンスでご本人、ご家族の思いを実現できるよう話し合っている	介護計画は、本人・家族の意向を聞きながら、原案を提示し、さらに、職員の意見や気づきを踏まえて介護計画を作成している。利用者の健康維持を支援しながら、役割を持ってもらうことで、その人らしく暮らせるように計画作りを行っている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	本人の要望、意見、つぶやき等を日々の記録に残し、スタッフ間で共有している		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	家族にもホームに泊まってもらえるようにしている 急な外出や欠食にも対応している		

岐阜県 グループホームかんまち

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	飛騨市の介護サポーター制度に登録し、サポーターの受け入れを準備している 地域ボランティアの方も受け入れている		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	可能な限り、家族同行により、かかりつけ医への受診してもらっている かかりつけ医へは身体状況等を報告している	かかりつけ医を個々に継続し、遠方の人は、協力医に変えている。かかりつけ医と協力医への受診は、家族同行を基本としているが、協力医とは24時間の連絡体制と往診があり、安心な医療を受けられるよう支援している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師が体調の変化など相談し、必要に応じて家族に連絡し、受診をすすめている		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院時は入院前情報を提供している 退院前に院内訪問し、関係者から情報提供を受けている		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	看取りも含め重度化や終末期に向けた方針を契約時に確認している	重度化と終末期の支援方針を明文化し、契約時に本人・家族に説明をしている。段階的に、家族と関係者で話し合い、方針を再確認することになっている。終末期に備え、医療と看護、介護との連携を整えている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	普通救命講習を受講している 緊急時の対応マニュアルを整備し、関係機関への連絡方法など見やすい場所に掲示している		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難誘導訓練、通報訓練、消火訓練を定期的に行っている	災害訓練は、消防署や防災設備事業者の協力の下で実施をしている。避難は、指定の公民館へ誘導し、初期消火や通報訓練も行っている。地域との連携は、話し合いの段階である。	地域の代表者を変え、相互協力で同意が得られるよう、話し合いを継続し、備蓄の品目や適切な数量等の確保に期待したい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	方言を交えつつ丁寧な声かけをするよう気を付けている 特に入浴、排泄の介助が必要な時にはコミュニケーションを密にとり、尊厳を損なわないよう努めている	言葉かけは、利用者の自尊心を損ねないよう、慣れ親しんでいる方言で、優しく語りかけている。また、今までの生活習慣も尊重し、不安を与えないよう対応している。人権擁護の倫理規定もあり、職員間で共有している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	自己決定を優先し、できない部分は本人の能力に応じた働きかけをしている		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	体操や散歩など、その日の体調、気分をうかがい、無理なく過ごせるよう努めている		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	理美容の利用はなじみのところへ行けるよう家族に協力してもらっている 着替えも季節に見合った服を着られるよう衣替えをしてもらい、着る服は自分で選べるよう支援している		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	食材の買い出しや、食事の盛り付け、後片付けをスタッフとともにやっている お好み焼きやおはぎ等は一緒に作っている	食事づくりは、利用者も職員と共に、材料の買い出しに行くことから関わっている。家庭的な味付けと、彩りにも気を配った献立で、食欲と満足感につなげている。利用者は、職員と一緒に食べながら、それぞれのペースで、楽しく味わっている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	特に夏場の水分摂取量には気を付け、夜間も水分補給ができるよう各部屋に飲み物を準備している 食事摂取量を記録に残し、体重の増減なども加味し、食事を提供している		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後の口腔ケアの声かけ、見守り、必要な場合は介助している また、歯科受診が必要な方には、家族に連絡し、受診してもらっている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	紙パンツ、パットを使用している方も自身でトイレへ行かれる方がほとんど トイレへ行かない方には声かけをしている 本人の希望で夜間のみポータブルを利用の方もいる	ほとんどの人は、排泄の自立度が高く、維持できるよう支援をしている。一部の利用者には、自尊心を損ねないよう、さりげなく声をかけ、トイレへ誘導している。夜間は、個別の排泄パターンに応じて声をかけている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	朝食時にはバナナやヨーグルト等を提供し、適度な運動、水分補給を行うことで自然な排便ができるよう努めている		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	週2回の予定はしてあるが、希望があればシャワーや入浴をしてもらっている	入浴日を設定しているが、夏場や汚れがあれば、シャワー浴も取り入れている。介助の要らない人は、脱衣室で見守り、その人のこだわりや習慣に合わせ、満足が得られるように支援をしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	その方の生活習慣に応じ、食後の休息や午睡等自由に行っている。就寝時には部屋の空調を調節し良眠できるよう努めている		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	常勤看護師が服薬管理しているが、職員全員が服薬内容、身体状況を把握するよう努めている		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	畑仕事、針仕事、編み物、食事の準備、後片付け等その方にあった役割を見つけ、充実した生活が送れるよう努めている		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天候や健康状態を考慮し散歩に出かけている 季節をより感じてもらうよう花見や紅葉見物にも出かけている	近くの神社までが、日常の散歩コースになっている。食材の買い出しやイベント見物などに出かけたり、年間行事では、季節の花見や紅葉狩りなど、外出の機会も多い。家族の協力を得て、通院や理美容院、外食などへ出かける人もある。	

岐阜県 グループホームかんまち

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	本人、家族の希望で少額を手元を持っている方もみえる ホームで現金を預かる場合には金庫に保管し出納帳にて管理している		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	携帯電話を持参してみえる方もいる 希望があれば相手先の都合を考え、電話を使ってもらっている		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	リビング、廊下、居室は畳敷きになっており、廊下の壁には作品を飾るなどしている トイレは男女別にしてあり、混乱しないよう表示をしている	室内は廊下も含めて、すべて畳敷きで、柱や壁にも温もりが感じられる。昔ながらの家具にも生活感があり、大型テレビの前には、ゆったりとしたソファを配置している。廊下の壁には、絵画や手づくり作品、写真等を飾り、表示物も分かりやすい字体にするなど、工夫している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファやテーブルの配置を工夫し、グループ分けができるようにしている 疲れた時などは居室で休んでもらっている		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	自身の作品や思い出の写真を飾られたり、使い慣れたカメラなど持ち込んでもらい、安心できる空間になるよう努めている	居室は、畳敷きにベッドと筆筒、椅子など置いている。使い慣れた物や日用品を、好みに配置している。本人の趣味の作品や孫の作品、記念写真などを飾り、居心地良く安心して暮らせるよう工夫している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	ホーム内の手すり高さを少し低く設置し、使いやすいようにしている 居室入り口にはプレートを設置し自室とわかりやすいようにしている		